

The image features a high-angle, grayscale aerial photograph of a dense urban landscape, likely Tokyo, with numerous skyscrapers and residential buildings. A large, stylized graphic element is overlaid on the left side, consisting of several concentric, curved blue lines that sweep across the top and middle of the frame. In the center of this graphic is a purple silhouette of a map of Japan. The Japanese text '実現戦略' (Implementation Strategy) is printed in a bold, black, sans-serif font within the purple map area.

実現戦略

国際アート・カルチャー都市構想実現戦略

文化戦略

多様性を踏まえた文化芸術の展開

サブカルチャーからハイカルチャーまで、伝統的な文化から最先端の文化まで、ジャンルを超え、さらに、アートとエンターテインメントとの融合を図る等、多様な文化が共存する世界に例を見ない豊島区らしい「アート・カルチャー」の魅力溢れるまちづくりを進めます。

このまちに暮らす人、また訪れる人は、アート・カルチャーを鑑賞するばかりでなく、時には主役となって文化を体感できるまちとなります。

第1戦略 豊島区の強み、サブカルチャー、舞台芸術、池袋モンパルナスの展開

第2戦略 多様な文化芸術の創造と創造環境の整備

第3戦略 地域文化・伝統文化の継承と発展



第1戦略

豊島区の強み、サブカルチャー、舞台芸術、池袋モンパルナスの展開

サブカルチャーの魅力の普及と拡大、舞台芸術のまちとしての魅力発展、そして池袋モンパルナスと呼ばれた芸術と文学のまちの魅力拡大の3本の柱を中心に、豊島区が強みを持つアート・カルチャーの魅力を増大することで、ハイカルチャーからサブカルチャーまで、ジャンルを超えて多様な文化が共存する世界に例を見ない「文化融合都市」の魅力を増大させ、「国際アート・カルチャー都市」として、結実させます。

1. サブカルチャーの魅力の普及と拡大

2. 舞台芸術のまちとしての魅力発展

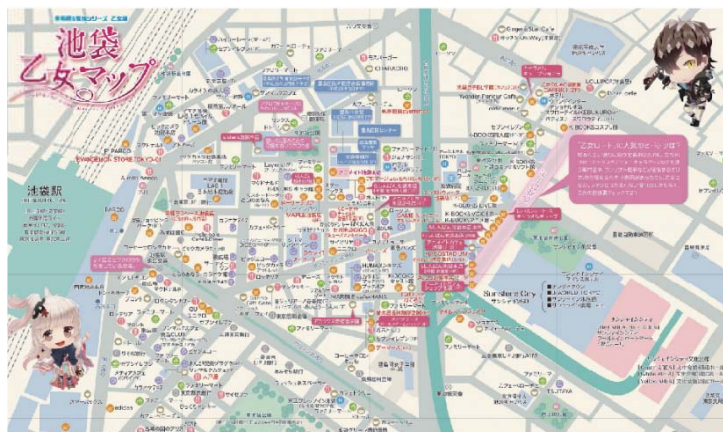
3. 池袋モンパルナスと呼ばれた芸術と文学のまちとしての魅力拡大

1. サブカルチャーの魅力の普及と拡大

豊島区は昭和のマンガ創生期から現在に至るまで、多くの著名なマンガ家が一時代を過ごし、現在も読み継がれているさまざまな作品が生まれ出された地です。そして、現在は、アニメ関連のさまざまな産業が集積しています。これまでの蓄積を生かすとともに、女性が安心して楽しめるサブカルチャーのトップランナーのまちとして、「いつ来ても何か楽しいことのあるまち」をめざします。

(1) サブカルチャーの集積地としての魅力の普及

アニメイト池袋本店、「乙女ロード」、ニコニコ本社をはじめとして、近年、サブカルチャーの発信拠点が続々と誕生し、一大集積地となっています。女性が安心して訪れることができる安全・安心なまちづくりを進めるとともに、民間と協力しながら、店舗の誘致やイベント開催を行うことで、いつ来ても何かをやっているまち「アニメシティ」のイメージを拡大していきます。



(2) アニメ・コスプレのまちとしての魅力展開

① オータムカルチャーフェスティバルの拡充

池袋ハロウィンコスプレフェス、フェスティバル/トーキョー、ぶくろマルシェ-WEST、池袋シネマチ祭、アニメイトガールズフェスティバル等をビッグイベントとして一体的に展開し、池袋のまち全体を劇場化していきます。

② アニメソング、特撮ヒーローの魅力再認識

アニメソングは日本語でありながら、世界中のアニメファンの共通語となっています。仮面ライダーを始め多くのヒーローを生み出した石ノ森章太郎氏がトキワ荘でマンガ活動を開始する等豊島区にゆかりが深いことから、街中に拡大する発信拠点を有効に活用し、アニソン、特撮ヒーローの魅力を再認識する機会を提供します。

(3) マンガの聖地に南長崎マンガランドの展開

豊島区ゆかりのマンガ家の作品を活用したモニュメントを南長崎の各所に配置し、回遊性向上と話題性のある施策展開・にぎわいを創出しながら、トキワ荘復元を検討していきます。



2. 舞台芸術のまちとしての魅力発展

規制緩和等の手法を用い、さまざまな表現活動の場としてまちを開放することにより、多様な文化の出会いと交流の生まれる場としての魅力を発展させます。オリジナリティあふれるイベントや世界水準の芸術フェスティバルを継続発展させていきます。

東京芸術祭

東京芸術祭
2016 TOKYO METROPOLITAN FESTIVAL

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した、都市型総合芸術祭を創設します。2016 年秋は舞台芸術フェスティバルを豊島区池袋エリアで展開。新たな価値観をはぐくむ交流と参加の場が生まれます。

(1) 国際的演劇祭：フェスティバル／トーキョー (F/T) の魅力拡大

フェスティバル／トーキョーは東京芸術劇場、あうるすぽっと、にしすがも創造舎等を舞台に開催する我が国最大級の国際的な舞台芸術祭です。海外からの劇団を招聘するほか、海外でのワークショップ、共同製作を行う等、国際的な取り組みを拡大し、池袋を中心とした舞台芸術の創造・発信をしていきます。



写真：石川 純

(2) 新進劇団の登竜門：池袋演劇祭の充実

国内に例を見ない、官民協働運営の都市型舞台芸術フェスティバルとして、劇場に留まらず、野外イベント等を開催して“演劇のまち”池袋を特徴づけています。新ホール・新区民センターを有効に活用した親しみやすいフェスティバルの開催地として、豊島区を大きく国内外にアピールする絶好のチャンスにします。

また、池袋を中心に展開する劇場・ホールで行われる参加公演を公募審査員が採点する地域密着型の演劇祭として、多くの若い演劇人を育成してきました。平成 30 年には 30 周年を迎えるため、それを機に演劇祭の規模を拡大します。

(3) 「としま大田楽」により区オリジナルの文化の魅力を展開

中世に大流行し姿を消した芸能「田楽」を、世代や国境を越えた誰もが参加できる芸能として甦らせ、コスプレ等豊島区ならではの文化も取り込んだ新たな芸能として再構成します。

500 名以上の参加区民とともに、グリーン大通りや南池袋公園等東池袋一帯を舞台に実施することで、「まち全体が舞台 誰もが主役」を実現します。



(4) 東京都の文化ビジョンに基づいた事業との連携

文化拠点である池袋の文化施設を核として、現在行われているフェスティバル／トーキョー、池袋演劇祭、アジア舞台芸術祭を再編成し、舞台芸術の祭典としてブランド化を推進します。

ジャンルを拡大し、多数の小劇場や公共空間を組み合わせ、東京都の文化事業と連携し、豊島区の伝統文化、サブカルチャーを合わせ広く発信して、その存在感を発揮していきます。

3. 池袋モンパルナスと呼ばれた芸術と文学のまちとしての魅力拡大

1930年代、旧長崎町を中心として、アトリエ村が生まれました。そこでは絵や彫刻を学ぶ学生や若い美術家たちが、切磋琢磨しながら創作に打ち込みました。池袋は、美術家たち、詩人、新興キネマの俳優等、芸術家たちの創造への意欲を育む土壌だったのです。芸術のまちとして輝きを放った時代の精神を引き継ぎ、未来へ向けて「まち全体をキャンパスに」発展させていきます。

(1) 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館の拡充

西口の主要な団体、企業、ギャラリー、商店街等が参加し、協働をコンセプトに取り組み、まちのにぎわいを作り出しています。8つのホールの大規模オープンに合わせ、会場をさらに大きく広げて展開することで、「まちのどこもが美術館」のコンセプトを実現します。



(2) 国際的公募美術展：アートオリンピアの開催

アートオリンピアは、東京、ニューヨーク、パリを募集拠点に、世界的に著名な美術関係者を審査員に迎え、才能あるアーティストを発掘し、その活動を支援することを目的とする国際的公募美術展です。区庁舎を舞台に隔年開催することで、美術展とともに開催地としての豊島区役所の知名度を上げていきます。

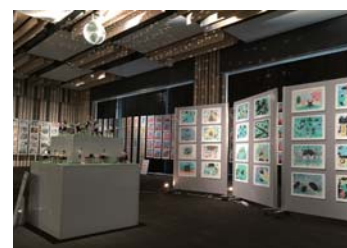


(3) 障害者アート等の充実

障害者作品展「ときめき想造展」等の機会を拡充し、障害者の作品のすばらしさと無限の可能性を発信していきます。

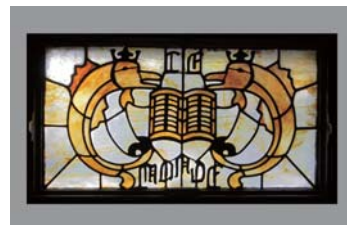
(4) 子どもたちのアートの魅力発信と育成

スポーツと同様、芸術の世界でも子どもたちには、無限の可能性があるとされています。これまで進めてきた新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術展における「まちかど子ども美術館」等の機会を拡充し、子どもたちの作品のすばらしさを発信するとともに、文化を担う次世代の育成に努めます。



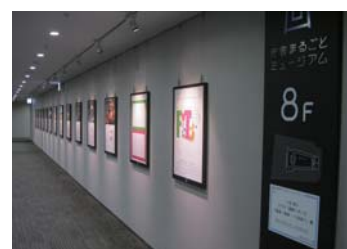
(5) フランスとの懸け橋：旧鈴木家住宅

日本のフランス文学研究黎明期に活躍し、ボードレー、マラルメ等の翻訳で高名な故鈴木信太郎氏の旧邸に改修の手を加えて開設する(仮称)鈴木信太郎記念館は、鈴木信太郎氏の功績を顕彰するとともに日本とフランスとの架け橋の役割を担います。



(6) 新しいミュージアムと庁舎からの魅力発信

「郷土資料」、「美術」、「文学・マンガ」の3分野が連携した豊島区独自の新しいスタイルのミュージアムの建設準備を進めます。建設後は、庁舎で展開している庁舎まるごとミュージアムと合わせて、区の誇る文化資源の魅力発信します。



第2戦略

多様な文化芸術の創造と 創造環境の整備

文化創造と発表の場の整備、区民との連携による多様な文化の創造、そしてアーティストが暮らし活動する環境の整備による多様な文化芸術の創造と創造環境の整備を行うことで、国の内外から人びとが集積し、多様なアート・カルチャーを鑑賞するだけでなく、身近な居住空間にアートが存在するとともに、あらゆる主体が文化創造に参加し、生き生きと活動できるまちづくりを進めます。

1. 文化創造と発表の場の整備

2. 区民との連携による多様な文化の創造

3. アーティストがスタートアップし、 暮らし活動することができる環境の整備

1. 文化創造と発表の場の整備

新たに整備するホールと区民センターについては、周辺施設はもとより区内の文化施設とも連携しながら、国際アート・カルチャー都市のシンボリックな施設にふさわしいポテンシャルを十分に発揮できるような質の高い公演を開催するとともに、豊島区らしい文化創造の舞台となります。

(1) 新ホール、区民センターと既存施設との一体的、重層的な運営・活用

① アート・カルチャー都市のシンボルにふさわしい新ホールの整備

事業者と協議を進め、施設全体としてにぎわいの拠点となるばかりでなく、国際アート・カルチャー都市のシンボルにふさわしいホールを整備します。宝塚等人気の高い演目が上演されることで、地元で一流のコンテンツにふれることができます。映画賞を招贈する等、施設全体を有効に使いながら魅力を発信します。

② 区民センターと一体的に活用することによる文化の創造と発信

(仮称)豊島区新ホール、区民センターを中心に、あうるすぽっと等既存の施設と一体的、重層的に運営・活用しながら、東京芸術劇場や民間の多様な劇場等との連携を進め、多様な文化芸術活動を展開します。駅からまちへの連続性や小さな表現場所の確保を図りながら、まち全体が舞台を実現します。

公会堂と区民センターを含むイメージ図
 外観（上） 断面のイメージ（下）



2. 区民との連携による多様な文化の創造

大学や民間事業者、NPO法人等さまざまな主体との連携を推進する手法を検討・拡大し、多様な文化の創造を行います。

また、その連携を推進できる人材の育成を進めます。

(1) 「にしすがも創造舎」等 拠点施設の活用

廃校施設の暫定活用として始まった「にしすがも創造舎」については、拠点の一時移転に伴う事業規模の縮小後は、文化創造環境の整備を行い、より質の高い文化芸術に触れる機会の提供と文化の創造に取り組みます。



(2) 身近な拠点からアートの発信

アートステーション構想によるアートの発信と人材の育成

アートの発信と人材の育成を目的とするアートステーションを区内に拡大し、人と人、さらに人とまちをつなぎ、区民等の自立的主体的アート活動を支援して、文化創造活動の裾野を拡大していきます。

(3) 基金創設と認定制度による文化創造活動の拡大

区民や民間事業者等の活動を推進するために、寄付金を財源とした基金の創設と認定制度による文化創造活動の拡大を検討します。

3. アーティストがスタートアップし、暮らし活動することができる環境の整備

アーティストやクリエイティブビジネスの集積を図ることで、区内での継続的な活動を促します。

(1) アーティストやクリエイターが暮らし、活動するまち

紫雲荘等、これまで区が進めてきた実験的試みや、RYOZAN PARK（リョウザンパーク）等を実現した民間の事例とともに、長期間にわたってアーティストが滞在できる拠点の仕組みづくりや、それをマネジメントできる人材の育成を検討します。そうした拠点でのデッサン教室、スポーツを通じた交流、音楽会、公園で美術作品の展示、トークイベント等を通じて、地域内の交流の活性化と文化に接する機会を提供します。

① 「活動の場」として公共空間を開放

国家戦略特区等を活用して、道路や公園等を活動の場として活用できる仕組みを作ります。

② リノベーションを活用した空き家、空き店舗等の活用

民間と公共の空き家や空き店舗等をアーティストの活動場所やイベントスペースとして活用できる制度を立ち上げ、アーティストの活動を支援します。

③ アーティストの交流の場づくり

新たな活動を志すアーティストが集まる場をつくり、集まったアーティストたちに、国際アート・カルチャー都市としまの魅力を発信できる交流イベント等の場づくりを継続的に行います。

(2) クリエイティブビジネスの拠点集積の促進

多様な若者を受け容れながら発展してきた豊島区の文化風土・地域特性を踏まえ、クリエイティブな世界を志す人たちのスタートアップを支援する場・仕組み（プラットフォーム）を民間との連携により形成していきます。

① ビジネス拠点となる都市開発（オフィス増床）

再開発等によりビジネス拠点となるオフィスを増床し、国内外の企業を誘致します。

② 規制緩和の活用

国家戦略特区や都市再生緊急整備地域の指定といった規制緩和も活用しながら、東京都とも連携し、ワンストップ窓口や生活支援窓口を設置して、外国企業が進出しやすい環境を整備します。

③ 起業支援

インキュベーションオフィスの開設やスタートアップイベントの開催、起業融資の利子補給の拡充等の環境を整備します。

④ 情報交流・発信の場の提供

ビジネスマッチングや交流会、広報宣伝強化等により販路拡大や企業間ネットワーク構築を促進します。

第3戦略

地域文化・伝統文化の 継承と発展

としまブランドの展開、地域文化の拡充と参加の拡大、そして伝統文化の継承と発展の3本の柱を展開することで、地域資源である郷土に根付いてきた文化の魅力を再発見し、豊島区の文化の多様性の魅力を向上させます。

1. としま文化イメージの展開

2. 地域文化の拡充と参加の拡大

3. 伝統文化の継承と発展

1 としま文化イメージの展開

豊島区のイメージを象徴するものを明確に打ち出し、普及させることで、地域コミュニティの活性化を図るとともに、地域への愛着、親しみやすさを育みます。

(1) ソメイヨシノ発祥の地によるイメージづくり

日本を代表する桜・ソメイヨシノは、江戸末期から明治にかけて、染井村の植木職人が、エドヒガンザクラとオオシマザクラの品種を改良して作ったといわれ、染井の地名を冠する桜として全国に広まりました。豊島区発の「日本の心」と言っても過言ではありません。

四季の彩りにあふれた環境都市を豊島区のイメージとして普及させます。



ソメイヨシノプロジェクト
全国に桜の苗を届けます



面影橋からの桜

(2) ふくろうによるイメージづくり

豊島区は、まるでフクロウが羽を広げているような区の形をしています。みみずくはたまごをかえすのが上手いことから、子育ての神さま雑司が谷の鬼子母神では、江戸時代から「すすきみみずく」が郷土玩具として生まれ、現在も「すすきみみずく保存会」によって受け継がれています。また、池袋（いけぶくろ）と「ふくろう」との語呂が良いとされていることなどからも、古くからふくろうは、豊島区のイメージと重ねられてきており、今後もその普及を図ります。



豊島区マスコットキャラクター
そめふくちゃん（上左）ななまる（上右）
庁舎3階 ふくろうコレクション展示（左）

2 地域文化の拡充と参加の拡大

「東京大塚阿波おどり」「ふくろ祭り」「東京よさこい」「東京フラフェスタin 池袋」等の祭りをはじめ、おおつか音楽祭、池袋ジャズフェスティバル等、地域文化として育まれてきたまち全体を舞台にした数多くのイベントがあります。これらのイベントへの参加機会の拡大をはかることで、誰もが主役となるまちを実現します。



池袋ジャズフェスティバル



大塚バラ祭り



東京大塚阿波おどり



ふくろ祭り



東京よさこい



染井よしの桜まつり

3 伝統文化の継承と発展

地域に根付いた文化や伝統芸能を区民の手によって継承し、未来の子どもたちに引き継いでいくことを支援します。

地域資源の再発見によるまちの魅力の向上は、住民のみならず、日本文化に馴染みのない外国の方を惹きつけます。

(1) 雑司が谷未来遺産の継承と魅力発信

武蔵野の面影を残す自然の森があり、万灯を揺らして練り歩く古くからの賑やかな祭りがあり、人情豊かな人々の触れ合いがある雑司が谷の魅力や、子どもたちが100年後の未来にも引き継げるように、今ここで暮らす人たちと力を合わせ、古き良き伝統を継承し、自然と時代の変化を調和させる取り組みを行っています。



雑司が谷旧宣教師館



雑司が谷案内処



けやき並木



すすきみみずく



御会式 万灯練供養



鬼子母神堂 大公孫樹(オオイチョウ)



鬼子母神堂

※雑司が谷の鬼子母神堂は、国の重要文化財に指定されました。

(2) 地域に根付いた文化の保存と継承

古くから信仰に支えられてきた「御会式」「棠鴨高岩寺縁日」のような伝統ある行事を始め、長崎神社に伝わる獅子舞の「長崎獅子舞」等の豊島区に残る郷土芸能の継承に努め、その魅力を発信します。



長崎獅子舞

